

世界の交通事故の減少を願って

— “安全啓発活動(グローバル)” への取り組み—



オーストラリアでのタイヤセーフティキャンペーンイベント

ブリヂストングループでは、タイヤを始めする自動車関連製品を生産、販売している会社として、『交通安全の推進は社会的責任であり使命』であると考えている。1970年代にブリヂストンの、『タイヤは生命(いのち)を乗せている』という広告が話題になったように、長年にわたりタイヤの安全に関するメッセージを社会に発信するなど、安全啓発活動を積極的におこなってきた。特にタイヤ点検の大切さについて一般消費者に訴える活動は、販売会社、販売店に至るまで長年地道に取り組んできており、しっかりした基盤を築いている。

こうした基盤の上に、2003年からタイヤの日常の安全点検の重要性をより多くのドライバーに理解してもらい、それによる交通事故減少の実現を目的に、まず日本全国で『タイヤセーフティ活動(安全啓発活動)』を本格的に開始した。具体的には当社テストコースで一般ドライバーにタイヤの重要性を実際に体験してもらうタイヤセーフティドライビングレッスンの開催、工場や自動車教習所との協力で、主に小さな子どもを持つ母親を対象とした安全運転セミナーの開催等々、広範な地域においてさまざまな活動を展開している。こうしたレッスン、セミナー

(株)ブリヂストン ブランド推進部

企画・C I課 浅井 稔

参加者からの反響は想像以上のものであり、毎回多くの参加者に満足いただいている。

THINK BEFORE YOU DRIVE 活動へ

このタイヤセーフティ活動は、国内だけでなくグローバルで取り組むべき活動であるとの認識から、その一環として2005年から国際自動車連盟基金*および各国の自動車連盟と共同で『THINK BEFORE YOU DRIVE (忘れないで! 運転前のチェック)』活動を開始した。

THINK BEFORE YOU DRIVE (TBYD)活動とは、全世界で年間約120万人が死亡、5000万人が負傷しているといわれる交通事故の減少を目的として、衝突事故による負傷の軽減や衝突事故自体を防止するため、ドライバーが運転前にわずかな時間で実施できる4つの基本的な行動、「シートベルトの着用」「チャイルドシートの使用」「ヘッドレストの正しい調整」「タイヤの点検」の実践



中国でのタイヤ点検活動(全国各地の駐車場にて実施)

を呼びかける活動である。2005年5月のF1スペイン・グランプリより開始されたこのキャンペーンは全世界に広がり、中国などのアジア諸国や中東、豪州等々、現在ではその活動は世界73カ国に及んでいる。

*国際自動車連盟基金（FIA Foundation）：交通安全や環境保護などの啓発活動を推進するため、国際自動車連盟（FIA）により、2001年に英国で設立された国際慈善団体

いくつかその具体的な活動事例を紹介する。中国においては、現地法人が中心となり、2005年12月から1年間にわたって中国全土の100都市、300カ所で総計6万台以上の車輛に対して無償のタイヤ点検や安全啓発活動を実施した。また、上海周辺の小学生を招待して安全講習会を開催し、中国の子どもたちへの安全啓発活動も併せておこなった。マレーシアにおいては2006年10月より活動を開始し、ショッピングセンターなどでタイヤ点検などの重要性を伝えるとともに、テレビやラジオなどのメディアを通じてより多くの人々にメッセージを伝えている。またオーストラリアにおいては、2006年12月から同国の自動車協会と共同で、全国の系列のタイヤ小売店においてキャンペーンパンフレットやタイヤコンパクトゲージ（タイヤの空気圧や溝の深さを測る測定器）の無料配布などを実施し、運転前チェックの重要性を広く訴えている。ちなみに日本においては社団法人日本自動車連盟（JAF）と共同で、全国各地のショッピングセンターで家族連れや高齢者など幅広い層を対象に、タイヤ点検やシートベルトの着用の仕方などを実際に体験してもらう安全啓発イベントを展開している。こうした積極的な活動が評価され、国際自動車連盟（FIA）から企業として初めて『FIA ワールドプライズ』**を受賞した。

**FIA ワールドプライズ：2004年にFIA 設立100周年を記念して創設された賞で交通安全の推進に最も貢献した個人・組織に贈られる。

MAKE ROAD SAFE

2006年からは国際自動車連盟基金を中心と



マレーシアでの安全啓発イベント（ショッピングセンターにて実施）

して発足したグローバル交通安全推進委員会（Commission for Global Road Safety）に参加し、同委員会の主導する MAKE ROAD SAFE（道路を安全なものに）活動にも参画している。同活動は、年間120万人の交通事故死亡者の85%以上が発展途上国で発生している現状を憂慮し、これらの国における道路インフラ（信号や横断歩道の設置、交通システムの改善など）の整備を、G8各国や国連などの主導でおこなってもらうことで、交通死傷事故の減少を目指すものである。具体的には、2007年11月の国連総会での交通安全に関する討議の場において、上記の目的を後押しする国連総会決議の採択を嘆願するため、全世界的な署名活動が現在おこなわれているが、ブリヂストングループにおいても全世界の社員への署名呼びかけや、上述の THINK BEFORE YOU DRIVE（TBYD）活動の場などで積極的な署名活動を実施した結果、収集した署名総数はすでに3万4000人を超えている。

こうした一連の交通安全啓発活動は、当グループがブランドステートメントとして掲げている『ブリヂストンの変わらぬ情熱。世界のあらゆる場所で、すべての人のそばで、最高の品質で応えること。心を動かす力になること』に合致した活動であり、自動車に深く関わる企業の責務として、今後ともグループを挙げての社会貢献活動の一環としてさらに積極的かつ効果的な活動を展開していきたいと考えている。

◆ブリヂストン タイヤセーフティ活動
<http://www.tiresafety.jp/tsa/tbyd/index.html>